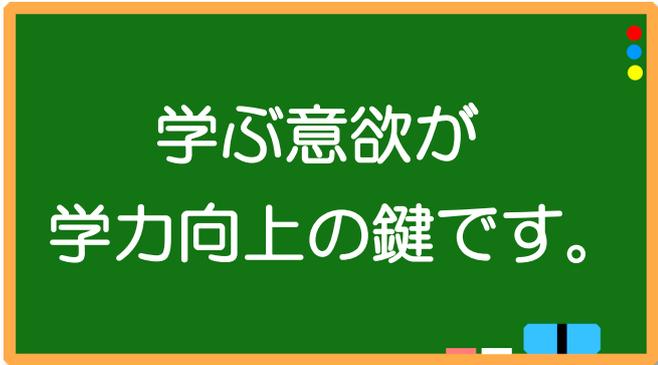


学ぶ意欲を育むために

平成28年度とちぎっ子学習状況調査の結果分析から見えてきたこと



このパンフレットは、学ぶ意欲を育むための効果的な手立てを紹介することで、先生方の授業改善につなげ、とちぎの子どもたちのさらなる学力向上を目指していくことを目的として作成しました。

平成28年度とちぎっ子学習状況調査の「教科に関する調査結果の平均正答率」と「児童生徒質問紙調査から把握した学ぶ意欲」との関係性を分析しました。

平成28年度とちぎっ子学習状況調査

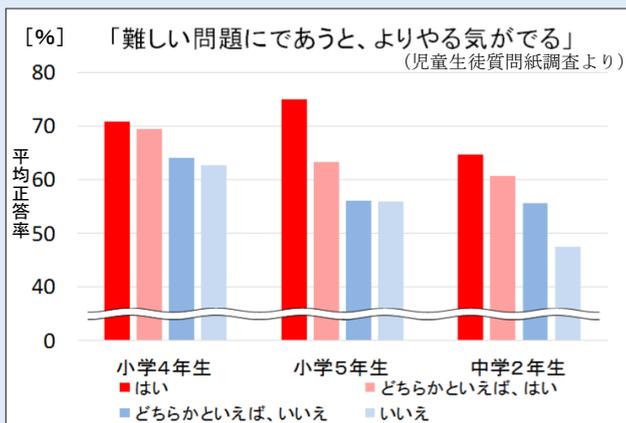
- ◆平成28年4月19日実施
- ◆県内の公立学校に在籍する以下の学年の全児童生徒対象
 - ・小学校第4・5学年、特別支援学校小学部第4・5学年
 - ・中学校第2学年、県立中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年
- ◆児童生徒に対して、教科に関する調査と児童生徒質問紙調査を実施

「難しい問題にであうと、よりやる気ができる」という質問と平均正答率との間に有意な相関*があるけれど、どのように授業を行えばよいのかな？

自校の児童生徒質問紙調査の結果を分析し、効果的な手立てを講じることで、子どもたちの学ぶ意欲を育むことができるかもしれませんね！



*「相関」とは、一方が変化するともう一方も変化するという、項目相互の関係性のことです。



学ぶ意欲はどのように育まれるのか

当センターでは、平成22年度に学ぶ意欲についての調査研究を行いました。学ぶ意欲が発現するプロセスには、欲求・動機、学習行動、認知・感情の三つのレベルがあります。[安心して学べる環境]のもとで、[知的的好奇心] [有能さへの欲求] [向社会的欲求]の欲求・動機が、具体的な学習行動として表れ、その結果として[おもしろさ・楽しさ] [有能感] [充実感]の認知・感情が生じます。例えば、[有能さへの欲求]が高まると、[自発学習]や[挑戦行動]といった具体的な学習行動として表出し、その学習行動で何らかの成功体験を味わうと[有能感]が得られ、新たな学ぶ意欲が育まれていきます。



今回の調査研究では、とちぎっ子学習状況調査における、児童生徒質問紙調査の学ぶ意欲に関する質問（下の対応表参照）への回答から把握した学ぶ意欲と平均正答率との相関を分析しました。なお、安心して学べる環境は、学ぶ意欲を育む上での土台であり、学ぶ意欲の構成要素と同様に大切なものです。そこで、本パンフレットでは、学ぶ意欲の構成要素として示すこととします。

児童生徒質問紙調査の質問文と学ぶ意欲の構成要素の対応表

質問番号	質問文	学ぶ意欲の構成要素
1	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	自発学習
16	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある	おもしろさ・楽しさ
18	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい	知的的好奇心
19	本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている	情報収集
20	難しい問題にであうと、よりやる気が出る	挑戦行動
21	できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている	独立達成
23	毎日の生活が充実していると感じている	充実感
24	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる	自発学習
27	授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている	協同学習
32	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	深い思考
34	クラスは発言しやすい雰囲気である	安心して学べる環境
37	先生は学習のことについてほめてくれる	安心して学べる環境
38	授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる	安心して学べる環境
51	自分は勉強がよくできる方だと思う	有能感
59	自分のよさを人のために生かしたいと思う	向社会的欲求
60	自分もっている能力を十分に発揮したい	有能さへの欲求

学ぶ意欲を育む手立て（小・中学校共通）

平均正答率と有意な相関が見られた学ぶ意欲の構成要素は、次のとおりです。

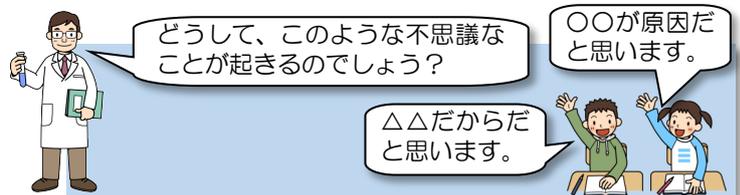
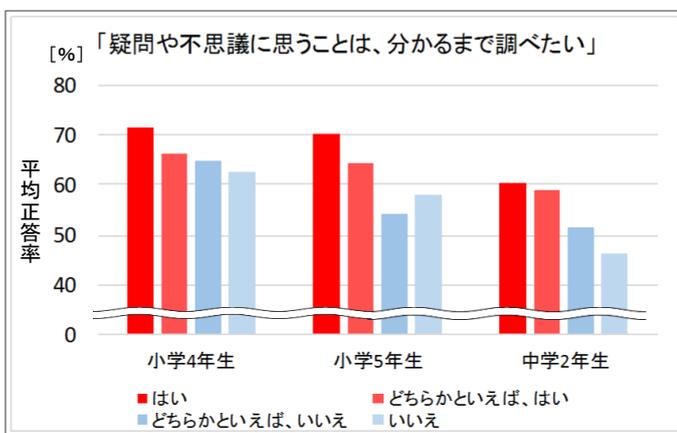
欲求・動機レベル . . . [知的的好奇心] [有能さへの欲求]

学習行動レベル . . . [情報収集] [挑戦行動] [独立達成]

認知・感情レベル . . . [おもしろさ・楽しさ] [有能感]

欲求・動機レベルと学力との関係

下のグラフは、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」[知的的好奇心]と平均正答率とのクロス集計の結果を表しています。この質問に肯定的に回答している児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向があることが分かります。同じような関係が、「自分も持っている能力を十分に発揮したい」[有能さへの欲求]と平均正答率との間にも見られました。



例えば、授業中こんな手立てを！

【知的的好奇心】

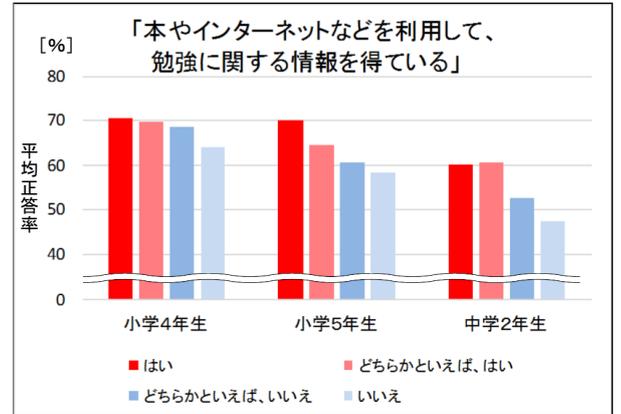
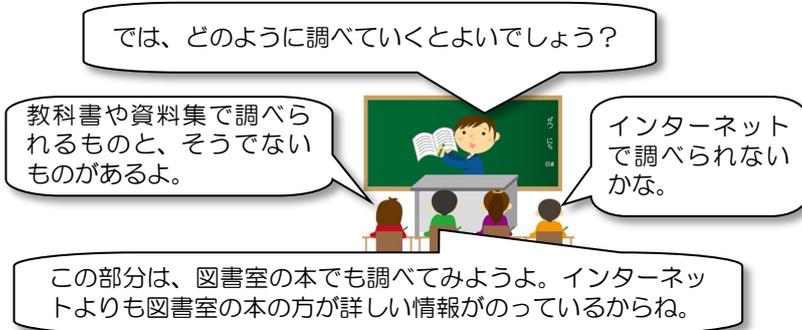
- ◆ 導入で、「なぜだろう」「不思議だな」などの疑問を持たせ、それを課題につなげさせましょう。既習の知識や経験的に知っていることに反する事象等を示すことは、「謎を解いてみたい」「自分で解決してみたい」などの意欲を高める上で有効であると考えられます。
- ◆ 新たな課題や自主学習につながる教師の問いかけを工夫して行いましょう。次時の授業や家庭学習につながる新たな問いを、授業の最後に投げかけることは、児童生徒が主体的に学習に取り組もうとする意欲を高める上で有効であると考えられます。

【有能さへの欲求】

- ◆ 目指すべきゴールを明確に示すことで、「自分にもやれそうだ」という思いを持たせましょう。単元や本時のねらいを示した上で、そのねらいが達成された姿を作品などで例示することは、「自分にもやれそうだ」という思いを抱かせることにつながると考えられます。
- ◆ 児童生徒に課題を解決するための計画を立てさせ、単元や本時の見通しを持たせましょう。課題について児童生徒が予想したことを計画につなげ、これに沿って単元や本時の学習を進めさせます。このことは、児童生徒が見通しを持ち、「自分の力を発揮して、課題を解決していこう」という意欲を高める上で有効であると考えられます。

学習行動レベルと学力との関係

下のグラフは「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」[情報収集]と平均正答率とのクロス集計の結果を表しています。この質問に肯定的に回答している児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向があることが分かります。同じような関係が、「難しい問題にであろうと、よりやる気ができる」[挑戦行動]及び「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」[独立達成]と平均正答率との間にも見られました。



例えば、授業中こんな手立てを!

【情報収集】

- ◆ 課題について調べる方法を児童生徒に選択させましょう。
どの方法（教科書・資料集、図書館の資料、インターネット等）で調べればよいかを自分で選択させることは、必要な情報を適切な方法で収集しようとする意欲を高める上で有効であると考えられます。

【挑戦行動】

- ◆ 児童生徒のつまづきを指導に生かしましょう。
つまづきの原因を振り返らせた上で再チャレンジさせ、成功体験を味わわせ、[おもしろさ・楽しさ]を感じさせることは、難しい問題にも挑戦しようとする意欲を高めることにつながります。
- ◆ 児童生徒が努力すれば解決できる難易度の課題を提示しましょう。
本時の課題を達成した児童生徒に対し、教師が準備した難易度の高い課題にチャレンジさせ、[有能感]を感じさせることは、難しい問題にも挑戦しようとする意欲を高めるために効果的です。



【独立達成】

- ◆ 自分ひとりの力で課題を解決する場面を設定しましょう。
協力して課題を解決する場合でも、話し合いの後には、他者の考えを参考にして自分の力で考えをまとめさせることで、児童生徒の自信が高まり、自分の力で解決しようとする意欲が育まれると考えられます。

学ぶ意欲は、「自分でやってみる」という活動に大きく関わっていると考えられます。例えば、謎解きで答えを明かされてしまうと楽しさが半減してしまうように、課題に対してすぐに解き方や答えが与えられてしまうと、学ぶ意欲は低下してしまうでしょう。自分の力で解決する喜びを味わわせるような指導や支援の工夫が大切です。

学ぶ意欲を育む手立て（校種別）

平均正答率と有意な相関が見られた学ぶ意欲の構成要素のうち、校種別に特徴が見られたものを次に示します。

小学校

「クラスは発言しやすい雰囲気である」 [安心して学べる環境]

例えば、授業中こんな手立てを！

【安心して学べる環境】

- ◆ 児童の考え方や発言のよいところを教師が認め、そのよさをクラスに伝えましょう。

間違っただけの中にある考え方のよさを取り出し、クラスに伝えることは、間違いを恐れずに安心して学習に取り組める雰囲気を作ることにつながります。

- ◆ 児童同士が、お互いのよさを認め合う場を設定しましょう。

協力して課題を解決する過程で、相手の意見のよさに触れながら自分の意見を発表させることは、安心して発言できる雰囲気を作るために有効です。

間違えちゃった・・・



なるほど！
そう考えてみたんだね！
この考え方の□□の部分
はとてもいいですね。

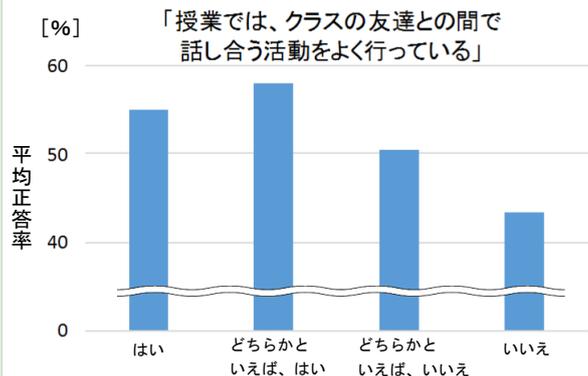
中学校

「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」 [協同学習]

「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」 [深い思考]

この課題について、グループで話し合いを
しましょう。

でもその前に、自分の考えをしっかり
持って、話し合いの中で説明できるよう
にしておきましょうね。



×××かもしれないね。

〇〇〇だと思います。

□□□なのかな？

△△△という考えもある
のではないかな。



人によって、いろいろな考え方があることが
分かりました。また、自分と同じ意見で
も、その理由は違う人もいました。多くの
人の意見を聞いて、自分の考えを見直すこ
とができました。



例えば、授業中こんな手立てを！

【協同学習】 【深い思考】

- ◆ 多様な意見が出るように学習課題や発問などを工夫し、一人一人に自分の考えを持たせましょう。

多様な意見が出るように学習課題や発問などを工夫します。そして、一人一人に自分の考えを持たせた上で話し合わせることで、多様な見方・考え方があることに気付かせます。このような取組は、多様な見方・考え方に気付くだけでなく、自分の考えを深めたり広げたりするために有効です。また、みんなで考えていこうという意欲を高めることにもつながります。

まとめ



今回の調査研究では、小・中学校に共通して [知的好奇心] [有能さへの欲求] [情報収集] [挑戦行動] [独立達成] [おもしろさ・楽しさ] [有能感] に、平均正答率との有意な相関が見られました。また、小学校では [安心して学べる環境]、中学校では [協同学習] [深い思考] に、平均正答率との有意な相関が見られました。

そこで！

自校のとちぎっ子学習状況調査における児童生徒質問紙調査の結果を分析しましょう。例えば、上記の学ぶ意欲の構成要素について、自校の傾向と県の肯定的な回答の割合を比べてみましょう。県の肯定的な回答の割合より低い項目については、それを高める手立てを考え、授業で実践することが、学力向上の鍵となると考えられます。

その他の学ぶ意欲の構成要素（P. 2 参照）を高めることも、学ぶ意欲を育むために大切です。重要なのは、各構成要素に意図的に働きかけることです。そのためにも自校の児童生徒について、学ぶ意欲の状況を的確に把握することが大切です。

御活用ください

当センターのWebサイトから、以下に示したアンケートや分析ツールをダウンロードすることができます。

栃木県 学ぶ意欲 調査研究  検索

アンケートを実施し、結果を分析ツールに入力することで、児童生徒の学ぶ意欲の状況を、学校、学年、クラス、個人ごとに把握することができます。



分析ツール

学ぶ意欲に関するアンケート	1	2	3	4
1 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
2 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
3 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
4 よくわからないことは、おもしろく感じている。	1	2	3	4
5 よくわからないことは、おもしろく感じない。	1	2	3	4
6 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
7 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
8 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
9 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
10 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
11 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
12 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
13 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
14 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
15 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
16 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
17 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
18 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
19 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
20 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
21 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
22 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
23 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
24 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
25 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
26 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4
27 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っていない。	1	2	3	4
28 授業で学んでいることが、自分の将来の役に立っている。	1	2	3	4

学習に関するアンケート

校内で「学習に関するアンケート」を実施して、学ぶ意欲の状況を把握してみましょう。

まずは、校内研修で結果を分析して、県の平均と比べるなどして、本校の子どもたちの「強み」「課題」を確認することが大切です。



「課題」を改善するための手立てを考えて、共通理解を図り、教師一人一人が実践していきましょう。



栃木県総合教育センター 研究調査部
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
E-mail : kenkyu-c@tochigi-edu.ed.jp

Webサイトを御覧ください。
本パンフレットを掲載しています。
http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/manabiyoku_h28/

